

日本雪氷学会 中尾 正義殿
および国際水プロジェクト等のご担当者殿

平成 24 年 6 月 5 日

水に関する国際研究・教育プログラムへの日本からの発信
ー若手研究者のキャリアアップとジャパン・イニシアティブー

オープンディスカッション会議への参加依頼について

日本学術会議 IAHS 小委員会委員長
谷口真人（総合地球環境学研究所）
日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会
（事務局：文部科学省国際統括官付）
IHP 分科会主査
寶 馨（京都大学防災研究所）

前略 若葉の鮮やかな季節、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
下記のように、水に関連する国際研究・教育プログラムの情報共有と日本からの
発信を目的にしたオープンディスカッション会議を開催いたしますので、ご
参加いただきますよう、ご案内申し上げます。

草々

記

会議名：水に関する国際研究・教育プログラムへの日本からの発信
日時：2012 年 10 月 15 日（月）9:30-16:30
場所：文部科学省・第 1 講堂（中央合同庁舎 7 号館・東館 3 階）（予定）

趣旨

ベルモント・フォーラム^注やユネスコ国際水文学計画第 8 期中期計画 (IHP-VIII)
において、今後 10 年の地球環境研究の重要課題の一つに Freshwater Security

が選ばれたことから明らかなように、水研究の重要性はますます大きくなっています。日本の水関連研究者コミュニティは、地球惑星科学・土木学・環境学から農学・生態学、社会学・経済学・地域研究にいたるまで、幅広い分野にまたがり、数多くの学会が水に関する研究・教育を進めています。また、水関連省庁やセクターも数多くありますが、それぞれが独立に活発な活動をしているにもかかわらず、十分な連携や情報交換ができていたとは言えず、水研究全体としての力量が発揮されていません。そこで、多岐にわたる分野での水関連国際研究・教育プログラムの情報を共有し、日本の水研究者・実務者コミュニティの力を結集して、国際研究・教育プログラムの中でどのように日本から発信していくか、日本が主導するプログラムは何か等を議論します。併せて、将来の水研究を担う若手研究者・実務者にとってのキャリアアップにつながる、国際研究プログラムとのつきあい方、国際研究ファンドへの関与の仕方、影響力のある発信の仕方についても議論します。

なお本会議へは、水研究に関する以下の関連学会・機関・団体・各省庁・資金提供団体に、参加依頼を行っています。各団体・機関の水研究にご関心の若手研究者・実務者への周知も併せてよろしくお願いいたします。

(以下、順不同)

参加依頼学会

水文・水資源学会、日本水文科学会、(公) 日本雪氷学会、日本陸水学会、(公) 土木学会、(公) 日本地下水学会、日本温泉学会、(社) 日本森林学会、日本地球化学会、(社) 砂防学会、農業気象学会、(公) 農業農村工学会、日本地熱学会、日本地形学連合、陸水物理研究会、(公) 水環境学会、(公) 地盤工学会、(公) 日本地理学会

参加依頼機関・団体

(独) 国立環境研究所、(独) 土木研究所、(独) 農研機構 農村工学研究所、(独) 森林総合研究所、(独) 農業環境技術研究所、(独) 水産総合研究センター、(独) 防災科学技術研究所(NIED)、(独) 宇宙航空研究開発機構(JAXA)、(公) 地球環境戦略研究機構(IGES)、(共) 国立極地研究所(NIPR)、(共) 総合地球環境学研究所(RIHN)、(独) 海洋研究開発機構(JAMSTEC)、(独) 産業技術総合研究所(AIST)、(独) 国際農林水産業研究センター(JIRCAS)、水災害リスクマネジメント国際センター(ICHARM)、国際連合大学(UNU)、アジア太平洋ネットワーク(APN)、(独) 日本学術振興会(JSPS)、(独) 科学技術振興機構(JST)、(独) 国際開発機構(JICA)、(独) 水資源機構、(公) 日本河川協会、(財) 河川環境管理財団、(財) 河川情報センター、(財) 日本環境衛生センター、(財) 国土技術センター、(社) 国際建設技術協会、(社) 雨水貯留浸透技術協会、(社) 建設コンサルタンツ協会、(財) リモート・センシング技術センター(RESTEC)、(特) 国際斜面災害研究機構(ICL)、アジア太平洋水文水資源協会(APHW)

参加依頼省庁等

内閣府 政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）付（総合科学技術会議事務局）

外務省 大臣官房文化交流部国際文化協力室

文部科学省 科学技術・学術政策局政策課資源室

研究開発局海洋地球課

研究開発局環境エネルギー課

研究振興局・学術機関課

科学技術政策研究所

厚生労働省 健康局水道課

健康局水道課水道計画指導室

農林水産省 農村振興局整備部設計化 海外土地改良技術室 海外企画班海外企画係

農林水産技術会議事務局総務課

林野庁 森林整備部治山課水源地治山対策室

森林整備部研究・保全課

森林技術総合研修所

経済産業省 経済産業政策局地域経済産業グループ産業施設課

国土交通省 水管理・国土保全局河川計画課

水管理・国土保全局水資源部水資源計画課

気象庁 総務部企画課国際室国際第二係

環境省 水・大気環境局水環境課

自然環境局総務課

(独)産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門

(注) 主要国のファンディングエージェンシーの集まりであるベルモントフォーラム（共同ホスト：米 NSF・英 NERC）は、「Earth System Sustainability Initiative」や「Future Earth」を主導する ICSU（国際科学会議）/ISSC（国際社会科学協議会）等と連携し、今後 10 年間の地球環境研究で取り組むべき研究課題への対応をはじめ、中長期的な研究の方向性を左右するものとして注目を集めています。2012 年 1 月には、アジアで最初のベルモントフォーラムが総合地球環境学研究所（京都）で開催され、「沿岸域の脆弱性(coastal vulnerability)」と「淡水の安全保障(freshwater security)」が承認されました。

会場入場のため事前登録が必要です。

次葉の返信用紙をご利用の上、ご参加の可否を、7月5日（金）までに
総合地球環境学研究所・研究推進戦略センター・吉田 kiriko@chikyu.ac.jp 宛、
お送りください。どうかよろしくお願い申し上げます。

(注1) 学会や組織を代表してお返事いただく場合は、下記の「参加する」、「参加しない」のいずれかに○印をおつけ下さい。

(注2) 個人で参加をご希望の方、複数学会に加入している方で参加をご希望の方は、下の(2)のみご記入いただければ結構です。

-----返信用にお使い下さい-----

貴学会・機関/団体・省庁名：

10月15日（月）の会議に

参加する

代表として参加いただける方の以下の情報を記入ください。複数の場合は連記ください

(1)情報提供をしていただき、公開議論に参加いただける方

お名前・役職・関連する国際的な水プログラム名・所属・連絡先(e-mail)

(2)その他の参加者

お名前・所属・連絡先(e-mail)

参加しない

-----返信用にお使い下さい-----